

記念日のいわれ No.2

4月22日…ブラジル発見の日 (Descobrimento do Brasil)

1500年4月22日は、ポルトガル人ペドロ・アルヴァレス・カブラル (Pedro Alvares Cabral) がバイーア地方の南の海岸に到着し、ポルトガル領を宣言した日です。ブラジルには以前から先住民インディオが生活していましたが、ポルトガルによる「発見」以前について、メキシコやペルーのような高度に発達した文明がなかったとされ、記録に残る歴史のスタートとして記念日とされています。



ブラジルを発見したカブラルは大陸を島と誤って認識し、「ベラ・クルス島」と命名しました。間もなくポルトガルのマヌエル1世によって「サンタ・クルスの地」と改められ16世紀中頃まで使われていました。しかし、その頃バイーアの海岸地方には「パウ ブラジル=Pau-brasil」と呼ばれる木がたくさん自生していました。このパウブラジルから、その頃大変貴重だった赤色染色が取れたため、競ってヨーロッパに運びました。そのためヨーロッパの人々はこの地を「パウブラジルの地」と呼ぶようになり、今日の国名となりました。なお、サンパウロ日本人学校の庭にも「パウブラジル」が生えているのを知っていますか？春にはその枝の先に黄色い花が咲きます。

ちなみに、ブラジルの語源はポルトガル語の「Brasa (ブラーザ) =よくおこった炭火」からきており、ブラーザのように赤いという意味があります。



サ日校で見られるパウブラジルの花